

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2007.7.9 現在)

埼玉県で分離され衛生研究所で確認された 3 類感染症である腸管出血性大腸菌は、2007 年 7 月 9 日現在で 44 株です。感染者の内訳で見ると下痢腹痛などの症状を呈した有症状者から分離されたのが 31 株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が 13 株でした。発症日で見たと月別の分離数では、4 月までは 3 株でしたが、5 月に 11 株、6 月に 16 株と分離株数が増加しています。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後続くことから、注意が必要です。分離血清型は O157 が最も多く、O157:H7 が 34 株、O157:H- が 2 株でした。その他の血清型では O26:H11 が 7 株、O111:H- が 1 株分離されています。

衛生研究所では、分離株数の多い O157:H7 についてはすべての株を、その他の血清型についても必要に応じて、PFGE 法を用いた DNA 切断パターンによる型別を行っています。7 月 9 日現在、O157:H7 34 株中 18 株の型別が終了しており 5 つの型に分けられています。5 月に血清型 O157:H7(VT2)による集団感染例が、東京都下の教育施設で発生し、県内でも 7 株が分離されました。この集団感染事例由来株は、全て同一の PFGE パターンを示し、教育施設と関連がないと思われる県北部で分離された 1 株が同一の PFGE パターンで、共通の感染源が示唆されましたが、その究明には至っていません。また、集積性のあるパターン以外にも県全体では多様なパターンが存在することから、複数の感染源が考えられ、今後とも注意が必要と考えられます。

現在、加熱用の生レバーや肉の生食による感染と考えられる事例が増加しており、これらを喫食する際には、十分加熱する事などの注意が必要です。

今後とも、原因究明調査へのご協力をお願いします。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2007.7.9 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	13
O157:H7	VT2	21
O157:H-	VT1&2	2
O26: H11	VT1	6
O26: H11	VT2	1
O111:H-	VT1	1
合計		44